



「4年ぶりを見る」コアジサシの幼鳥！！

2013年6月30日撮影

(森ヶ崎水再生センター施設屋上営巣地にて)

# こあじ冊子 *Koajisashi*

## 祝 4年ぶりに多くの幼鳥が育ちました！

### Contents

- 2013年 コアジサシの繁殖状況・・・・・・・・・・1
- 総力特集！！猛暑の営巣地！！・・・・・・・・・・2～3
- 森ヶ崎の救世主になるか「いやがらす煌き」・・・・・・・・4
- リトルターンプロジェクトからのお知らせ・・・・・・・・4



### 2013年 コアジサシの繁殖状況 調査研究部会

森ヶ崎営巣地では、5/12の調査講習会の後、5/19～9/14の毎週末の営巣調査18回が行われました。例年ならば遅くとも8月上旬には繁殖終了しコアジサシは渡去しますが、今年は実に4ヶ月にも及ぶ、異例の長期間にわたる営巣でした。記録的な猛暑の夏、2009年以来4年ぶりに多くの幼鳥たちが育っていきました。以下に今年の繁殖状況の概略を記します。

**4/29** 誘致用デコイの設置日、森ヶ崎では例年この日にコアジサシの初渡来が確認されることが多いのですが、今年は渡来がやや遅れていたようです。

**5/12** 営巣地には10羽近くの成鳥が飛来し、巣造りする場所を探したり、求愛給餌をするのが観察されました。

**5/19** 今年初めての営巣産卵が確認されました。まだ1巣の1卵だけですが、いよいよ本格的な営巣が始まりました。

その後、成鳥の数とともに営巣産卵数も増えていきました。今年から新たに導入したカラス避けが功を奏し、卵の捕食被害を減らすことができました。

**6/16** 待ちに待った今季初のヒナの誕生が確認されました。営巣地全体でこの日にはヒナ9羽が観察されました。



ふ化したばかりの雛



ふ化から1週間近くなった雛

**6/30** ふ化からおよそ3週間経って、翼の風切羽が生え揃い、飛べるまでに育った幼鳥1羽が今季初めて確認されました。



飛べるようになった幼鳥

その後、ふ化したヒナや飛べる幼鳥が次々と増えて、ベビーラッシュとなりました。さらに新たな産卵営巣も増えて、営巣地は活気にあふれていました。

**9/8** 長かった夏も終わり、今年最後まで残っていた1巣も終了し、この日でコアジサシの姿は終認となりました。

今年の総営巣数は合計144巣でした。育った幼鳥たちは次々と旅立って行くためその正確な数は把握できませんが、およそ数十羽以内と推定されます。【大塚 豊】



# 総力特集!!



# 猛暑の営巣地!!



侵入したカラスを猛攻!!

今年の猛暑は尋常ではなかったが、コアジサシの雛やコチドリ、シロチドリの雛にとっても苛酷なものだったろう。

8月11日の調査では午前中に確認した孵化2~3日の雛が午後には死んでいた。大きくなった雛も熱さで弱っているものが出て、水を汲んできては飲ませてやると、少し元気をとりもどしたようだった。温度計を見ると42度もあり、砂利の上に置いたら50度の針を振り切ってしまった。60度~70度もの熱さになっているのだろう。

自然の営巣地はたいてい玉砂利河原や砂浜にある。しかし屋上営巣地に水場はない。しかも敷いてある砂利やコンクリがらの下はコンクリートである。熱の逃げ場がない。

餌の魚から水分をとれるコアジサシの雛はまだしも、昆虫類が餌のチドリ類の雛は水分がほとんどとれない状況だろう。その為には水場を何ヶ所か用意してあげたい。次年度の大きな課題である。



午前の調査では生きていた孵化後2~3日と思われる雛

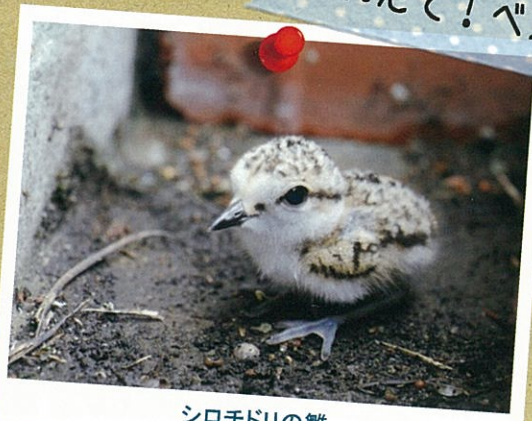


脱水状態で死んだと思われる幼鳥

撮れたて! ベストショット



求愛給餌



シロチドリの雛



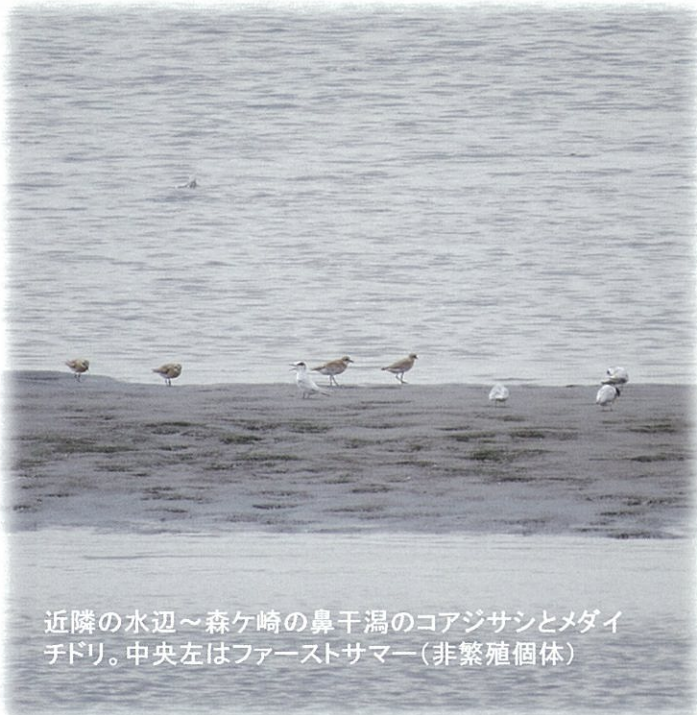
餌をねだる雛



夕暮れの飛翔



# 酷暑の中の営巣調査



近隣の水辺～森ヶ崎の鼻干潟のコアシサシとメダイチドリ。中央左はファーストサマー（非繁殖個体）

厳しく長かった夏もようやく終盤を迎え、森ヶ崎からコアシサシの姿も少なくなってきました。思い返せば今年の夏は厳しい夏で、私たちも熱中症に注意しながら調査に入りました。地面は熱く、コアシサシの雛達が暑さに喘いでいた姿は今も忘れることができません。松村さん達が水を飲ませ、体を冷やして対応してくれました。「頑張れ！負けるな！」と願いながら調査を続けました。その中で5羽の雛が暑さに負けて倒れていったことは残念！

しかし今年の調査は楽しいことも沢山ありました。コアシサシの雛が親鳥に餌をもらおうとアピールしている姿、シロチドリの雛が走って逃げていく姿など「可愛い！」と叫びたいシーンに何度も出会いました。そして営巣地で休息する、メダイチドリやムナグロなどを初めて見ることができました。「嬉しい」。酷暑は厳しかったけれど楽しい調査ができた年でした。来年は雛達にも暑さ対策が必要ですね。皆さんお疲れ様でした。そして、森ヶ崎の鳥達にも感謝！！【久保 明子】

## 営巣調査実施内容

2013年の営巣調査は、5月12日から9月8日まで18回、隔週交互の土日に行われました。典型的なスケジュールと調査内容をご紹介します。

午前10時に昭和島駅前入口に集合、メンバー点呼後営巣地内観察小屋に移動。調査・施設内の注意事項等の簡単なオリエンテーション後、10時半ごろから調査開始。

調査は、10m×10mの区画を、午前中に上部の280区画、午後から下部252区画のうち草原化していない約120区画を調査し、午後2時半頃に終了します。

一斑4～6名が横一列になり足元を注意しながら、地面の巣を探して歩きます。草の生えていない裸地にコアシサシ以外にコチドリ、シロチドリが営巣します。また、シェルター内は、コチドリ、シロチドリが営巣していたり、コアシサシの雛が隠れたりしているので、のぞきこみ、確認することが必須です。

巣が見つかったら、鳥の種類、区画と区画内の座標、卵の数を記録し、白い小石に日付と区画内の通し番号を記入し、次回の調査の目印にします。前回までに見つかっている既存の巣については、卵の増減を確認します。雛は確認した場所と数を記録します。

シーズン最初の調査では卵を見つけられるか不安になります。今シーズンはカラスによる捕食が少なかったため、抱卵期間から順調に孵化を迎え、新規の卵、孵化したばかりの雛から幼鳥まで各世代を確認できました。カラスの捕食対策がうまくいっているので、来年は今年以上の盛況が予想されます。ぜひ営巣調査に力を貸してください。【金澤 春伸】



猛暑のなかで卵や雛を探す調査（広さ6.2ha）



弱った雛にペットボトルのふたで水をやる



シェルターの日陰に入った幼鳥を見守る親鳥



宇都宮大学で開催された「カラスシンポジウム」に参加した時にカラス対策器材の展示があり、その一つに惹きつけられました。ステンレスのスプリングに羽がついたそいつは、空調のわずかな風で揺れていました。「いやがらす煌き」なんと単純なネーミング。よくよく見ればツバメの営巣を守った！という説明に、コアジサシでも有効？ メーカーの担当者と交渉し、会場で販売していた商品を3基寄付してもらい、秘密兵器を手にした喜びと、カラス以外の鳥にも効果がある、という一抹の不安を胸に帰路につきました。

年が変わり待望のコアジサシのシーズン。2回目の調査で21巣確認でき、やっと「いやがらす」を試すときが来ました。用意した園芸用の支柱をブロックに針金で



固定して2本の柱を立て、その間に「いやがらす」をぶら下げ、4卵の営巣の近くの区画に設置しました。ところがコアジサシ達は、「いやがらす」を警戒していて、飛び降りてきそうもありませんでした。20分近くたったころ、やっと遠くの巣から降り始め、ついには4卵の巣でも抱卵を再開しました。卵に対する執着心があればこそ。親の愛は何物にも勝つのですね。

翌週の調査結果では、「いやがらす」を設置していないほうの区画では12巣中8巣で被害を受け、設置した側では9巣中2巣の被害しかありませんでした。途中から倒れていたにもかかわらず「いやがらす」の効果が実証されました。「いやがらす」の近くでの捕食が15m離れたところだったので、守備範囲は約700㎡か？

広い屋上にいったい何基設置すればよいのだろうと保護整備部の予算と相談しながら増設していきました。「いやがらす」はアマゾンで1基2,310円、支柱が800円に針金で1基当たり約3,200円かかっています。

新規の営巣を次の週も無事に確認できることの喜びを感じながら調査を続け、多くのヒナの誕生を迎え、4年ぶりに屋上営巣地からコアジサシの幼鳥が飛びました。その初飛行に立ち会えたこと、これほど幸せな瞬間はないと思いました。【松村 雅行】

鳥居のような「いやがらす」に守られる

## お知らせ 2013年度 NPO法人リトルターン・プロジェクト 報告会

- 日時：12月7日(土) 14:00~16:00
- 会場：池上会館 西館2階「紅梅の間」「白梅の間」(池上1-32-8)
- 内容：◎特別講演「コアジサシの渡りルートの解明に向けて(仮題)」  
講師 日本鳥類保護連盟 藤井 幹氏  
◎今シーズンの営巣結果報告など

※参加費無料、直接会場に起こしてください

主催：NPO法人 リトルターン・プロジェクト 共催：大田区

協力：東京都下水道局 森ヶ崎水再生センター

問合せ先：大田区環境保全課 環境推進係 ☎03-5744-1365



### 会員になって一緒にコアジサシを守りましょう!

NPO法人リトルターン・プロジェクトでは、随時会員を募集しています。わたしたちと一緒に絶滅の恐れのある野鳥「コアジサシ」を守りませんか？

◇入会届のダウンロード先◇

<http://www.littletern.net/nyukai.html>

または、右記の問い合わせ先へご連絡ください。

◇入会届の送付先◇

〒143-0015 東京都大田区大森西 5-10-22 増田方

NPO 法人リトルターン・プロジェクト宛



◇発行：NPO法人リトルターン・プロジェクト

◇編集 増田 直也

◇レイアウト 牧野 ふみよ

◇写真 大塚 豊、松村 雅行ほか

◇挿絵 堀越 保二、岩本 久則

◎無断転載・複写複製を禁じます。

☆お問い合わせ先

〒143-0015 東京都大田区大森西 5-10-22 増田方

NPO 法人リトルターン・プロジェクト

E-mail: info@littletern.net Tel:090-1778-5917